

SDGs未来都市等進捗評価シート

福井県鯖江市

2020年9月

SDGs未来都市計画名	持続可能なめがねのまちさばえ ～女性が輝くまち～
自治体SDGsモデル事業名	女性が輝く「めがねのまちさばえ」～女性のエンパワーメントが地域をエンパワーメントする～

1. 全体計画

計画タイトル	福井県 鯖江市 SDGs未来都市計画 持続可能なめがねのまちさばえ ～女性が輝くまち～
2030年のあるべき姿	鯖江市固有の資源を最大限に活用することにより、地域のブランド力が高まり、魅力ある雇用が生まれ、若者が住みたく・住み続けたく・まちづくりが実現される。 また、今後も鯖江市が将来にわたって成長力を確保できるよう、経済界や市民、大学等が協働で経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組んでおり、特に、女性がすべての分野において重要な役割を担い、持続可能な地域社会の構築に貢献している。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール5 ターゲット 5.c ゴール8 ターゲット 8.3 8.5 8.9 ゴール9 ターゲット 9.2 9.b 	ゴール11 ターゲット 11.3 ゴール17 ターゲット 17.17 	ゴール6 ターゲット6.3 6.6 ゴール9 ターゲット9.4 9.b ゴール12 ターゲット12.2 12.5 12.8 ゴール13 ターゲット13.3 ゴール14 ターゲット14.1 ゴール15 ターゲット15.2 

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2030年	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）	
	1	女性起業家数【5,c】	2019年3月	20人	2021年	35人
2	サテライトオフィス誘致件数【8,3,8,5,8,9】	2019年3月	6件	2021年	10件	2019年度は誘致には至らなかったが、2020年4月は1件誘致できると、IT企業を中心に徐々に伸びており、女性や若者の雇用が増加している。今後もセミナーや企業訪問を行うほか、関心が高まっている、地方で働きながら余暇を楽しむ「ワーケーション」にも取り組む。
3	成長分野の技術開発、海外販路開拓件数【9,2,9,b】	2019年3月	27件	2021年	35件	2019年度は海外販路開拓が微増しているが、年度末からのコロナ禍で海外での展覧会が中止になり、更なる増は厳しい状況である。今後はオンラインを活用した展覧会などの開催により、販路開拓を図っていく。2020年10月には、オンラインと併用した国際メカ展も開催を予定している。一方、ものづくりのノウハウを活かして、コロナ対策グッズが開発され、売り上げが伸びている。
4	学生連携によるまちづくり提案数【11,3】	2019年3月	14件	2021年	19件	2019年度は学生からの政策提案を募集する事業等とおして微増しているが、2020年度以降はコロナ禍で学生が集まらず、一部の事業はオンラインで実施するなどしているが、件数は減少する見込み。他のすべての事業についても、オンラインを併用するなど検討していく必要がある。
5	まちづくりの提案をする団体数【17,17】	2019年3月	51団体	2021年	51団体	提案団体数は横ばいだが、新たな提案団体が現れており、参画する団体が広がりを見せている。2020年度以降はコロナ禍の影響で事業が中止または縮小しており、目標達成は困難な状況。コロナ禍の中でも効果が得られる事業方法を検討するとともに、新たに参画する団体をさらに広げることで、目標達成に努めていく。
6	外来植物防除活動取組箇所【6,3,6,6】	2019年3月	5箇所	2021年	3箇所	2019年度は外来植物が繁殖している箇所の把握を実施し、5箇所で開催と連携し防除に取り組むことができた。今年度以降も箇所の把握に努め、市民と連携した防除活動を図っていく。
7	ごみの1人1日あたりの排出量【9,4,9,b】	2019年3月	920グラム	2021年	870グラム	一般家庭のごみは減少しているが、北陸新幹線の工事の関係で、事業所用ごみが増加し、結果として数値上は後退している。今年度に入り、コロナ禍により、家で過ごす時間が増し、一般家庭のごみの増加が進んでいる。今後も環境教育支援センターと連携し、生ごみ処理施設やごみの分別・出し方の出前講座などを実施し、オンラインも活用しながら市民への周知を図っていく。
8	空き家利活用件数【12,2,12,5,12,8】	2019年3月	9件	2021年	19件	サテライトオフィスに利活用していることもあり、2019年度13件と順調に伸びている。市民団体や地域おこし協力隊などが積極的にマッチングセミナーを開催しており、今後も連携し、空き家の掘り起こしや空き家所有者との相談会などを開催し、利活用の促進を図る。
9	環境フェア等の参加者数【13,3】	2019年3月	13,000人	2021年	15,000人	2019年度は13,228人と微増。2020年度についてはコロナ感染拡大防止のため、環境フェア等、中止となった事業は多いが、COOLCHOICE啓発事業の実施で、環境意識の啓発に努める。来年度の環境フェアは開催予定であるが、企業からも参加したい要望もあり、広がりが期待できる。
10	新素材を活用した印刷物の利用件数【14,1】	2019年3月	0件	2021年	10件	イベントポスターや職員の名刺などでの活用は広がっているが、2020年以降はコロナ禍の影響によるイベントの中止で大きくは伸びていない。新素材やアップサイクルへの関心は高まっているので、正しいごみ分別の啓発も兼ねて、市のごみ分別のポスターで利用するなど、今後も普及啓発に努める。
11	森づくり事業 植樹苗木数（累計）【15,2】	2019年3月	3,000本	2021年	9,000本	2019年度については、目標通り3,000本の植樹を実施。今後も市民や市内の小中学生と連携し、植樹を実施し、温暖化防止の啓発を図る。





1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期鯖江市まちひとしごと創生総合戦略に先導的・横断的な取組としてSDGs推進を位置付け、実施施策ごとに17の目標を掲げた。 ・第5次鯖江市男女共同参画プランでは、目標5を基本理念として、女性活躍推進計画を組み入れ、女性が活躍しやすい社会を目指す計画とした。 ・第2期子ども・子育て支援事業計画では、7つの基本目標にSDGsのゴールを紐づけて、関連性を明記。施策を実施することで、目標達成に位置づけるものとした。 <p>今後、農業・林業・農村ビジョン、食育推進計画、環境基本計画など、計画期間を終えるものから、SDGsの理念を盛り込んだ計画に改訂する予定</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダースhip</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長を推進本部長とした「めがねのまちさばえ」SDGs推進本部を設置し、庁内で横断的な取組が図られるよう各部署ごとにSDGs推進に係る重点取組項目を設定し推進している。 	<p>■（域内に対し）「SDGsウィーク」として、市内のイベントにおいて、クイズやパネル等による啓発を実施。市のSDGs推進の記録動画を流したり、市民団体、学校と協力してアンケートを実施したり、情報発信・啓発に努めた。図書館ではSDGsの関連図書コーナーを設置。市内企業にポスターの掲示を依頼したり、中小企業向けのセミナーや自動販売機へのSDGs推進シンボルマークの掲載、応援企業の配達車に推進シンボルマークを表示したりなど、周知を図った。（国内に対し）様々な国内で開催される会議、研修会に積極的に参加。各種雑誌、WEBサイト、関連図書に積極的に取り組み事例を紹介。基幹産業である眼鏡業界と連携し、「オレンジめがねキャンペーン」と称して、本市が特に注力している目標5の「ジェンダー平等の実現と女性の地位向上」について、国連が定めた、3月8日の国際女性デーに、広く周知を図った。2020年2月に開催された、F1層に波及力のある「東京ガールズコレクション」でもキャンペーン告知を実施。このTGCへの参加で新たな企業とのつながりが生まれたことで、2020年10月のコロナ禍において、地域経済の活性化と目の健康や医療従事者の支援を行うことを目的とする、「さばえメガネをかけようキャンペーン」の実施につながるようになった。SDGs推進を共通言語に、行政、企業、NPO等がつながり共同事業を生み出す好事例となった。環境負荷の低い新素材の活用を産官学で協議している「かながわアップサイクルコンソーシアム」にも積極的に参加。市の取組事例の報告を行っている。（海外に対し）SDGs推進シンボルマークを活用して、2019年5月にドイツのボンで開催された国連の世界会議において、本市の取組をPR。2019年6月にはNY国連本部で開催された「SDGs推進会議」で本市の取組をビデオで報告。JICAを通じて、東ティモールやアフガニスタンなどの青年研修を受け入れ。このことがきっかけとなりJICAと連携で、本市の海外研修向けプログラムを作成。今後、このプログラムを活用し、本市の取組を発信できると考える。</p>	<p>■Goal 5を中心とした幅広い取組と指標は高く評価される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■女性活躍に向けた取組が進んでおり、前向きに評価される。 ■国連サミットへの参加によって女性市民の意識が高まり、普及啓発からアクションに繋がっている点が評価できる。鯖江市はものづくり産業・伝統産業が発展している、若いデザイナーからの関心が高いため、数年後にデザイナーと連携し、眼鏡以外の新たな産業を生み出せるとよいと期待する。 ■家庭内での女性の役割が変わらないと、社会進出は進まず、社会インフラが働く女性を支える必要がある ■SDGs推進補助金事業について、オンラインセミナー等が普及することを期待する。 ■発足したばかりであるが、今後はSDGs推進センターの役割のさらなる明確化が期待される。 ■福井ドームの環境と稼働率は良いと感じる。ホテルが少ないため、観光インフラを整える必要がある。
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■（域内外に対し）企業、教育機関への研修や連携事業も実施。2019年12月には「さばえSDGs推進シンポジウム」を開催。連携する企業、学校、市民団体、市民とともに「SDGsさばえ宣言」を宣言した。さらに、2020年度以降は、地域活動拠点施設として2019年度末に整備を終えた「夢みらい館・さばえ」を中心に、本市のSDGsの推進の軸である「ジェンダー平等の実現」「女性活躍の推進」を各団体と推進するため、「輝く女性のためのまちづくり」に関するワークショップなどを開催していく。また、2020年9月に「さばえSDGs推進センター」を開設。多様なステークホルダーとつながる拠点施設として位置づけ、情報収集・発信することで、相乗効果と好循環を創出する場を目指していく。この2拠点を両輪とし、SDGs推進を図っていく。（国内の自治体に対し）持続可能な素材「LIMEX」のアップサイクルの実践を図るためのコンソーシアムに参加。モデル構築のため、調査・研究などの情報交換を行った。他の自治体とも研修や事業を通じて、情報交換などを行い、連携への協議を進めた。（海外の主体に対し）2019年6月に国連本部で開催された「SDGs推進会議」において、ビデオで本市の取組を報告。2019年12月にはこの会議の議長である、アンワルルK、チャウドリー大使をお招きして、中学生や市民にSDGsの推進の大切さをスピーチいただいた。さらに、JICAを通じて、青年研修などを受け入れ、本市のSDGsの取組について情報発信した。</p>	<p>①メガネ・繊維・漆器といった、地場産業の縮小が進む中、地場産業の蓄積した高度な技術を活用した成長分野への進出やサテライトオフィス業の積極的な誘致などにより、若者や女性にとって魅力ある雇用場を創出することに努めた。②市民や学生との協働事業（市の業務を市民の提案を受けて委託、他県の大学との連携事業の展開、「鯖江市役所JK課」の取組や「鯖江市OC（おばちゃん）課」の事業の支援など）とおして、市民がふるさとに愛着や誇りを持ち、市政に直接的に広く参画するような、市民主役、全員参加のまちづくりを推進。人口が減少に転じると予想される中、市民や若者の居場所と出番づくりにより、行政サービスの質の維持と交流人口の増加に寄与した。③ワーク・ライフ・バランスの推進（アンケートによる現状の見える化や企業診断、優れた取組を行った企業の表彰など）、女性のヘルスクア講座、女性活躍を阻害している要因（インボスター・症候群等）の調査をおして、女性が輝くまちづくりに貢献した。④増加する空き家対策として、市民団体、事業者、行政が連携して、調査や活用セミナーを実施することで、住み続けたいと思える生活環境の整備に貢献した。</p>	

SDGs未来都市等進捗評価シート

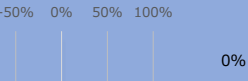
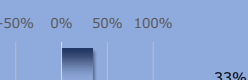

2019年度

1. 全体計画

自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2021年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
	① SDGs の普及啓発とシェアリングエコノミーの活用	11.2 17.17	SDGs 推進補助金の支援件数	2018年度 0 件	2019年 2 件	2021年 8 件	 25%	SDGsに関する学習会・セミナー等開催にかかる費用の一部を企業、学校などに補助する件数を指標としているが、2020年度に関しては、コロナ禍の影響で、件数が伸びない見込み。オンラインセミナー等についても補助対象とし、PR する必要がある。
	② 女性が輝くまち鯖江の推進	3.1 5.4 5.5 5.c 8.5 10.2	多様なワークスタイルを推進するセミナーの参加者数	2018年度 71 名	2019年 102 名	2021年 100 名	 107%	2018年度は開催日を3回に分けて開催していたが、3回通して参加することを条件としていたため、参加者が伸び悩んだ。2019年度は開催日を1日にして3部制としたところ、想定以上の参加者数になった。2020、2021年度も同様の形式で実施し、指標達成を目指す。
	③ 健康福祉のまちづくりの推進	1.3 3.4 4.5 10.2	高年大学活動参加者数	2018年度 37,000 人	2019年 38,000 人	2021年 38,000 人	 100%	2020年度については、コロナの影響で開講しないことが決定しているため、参加者数は0人となる見込み。2021年度はコロナウイルス感染防止対策を講じて開講する予定だが、指標達成は困難となる見込み。
	④ 鯖江モデル教育の推進	4.4 4.7	ふるさと学習の参加者数	2018年度 2700 人	2019年 3348 人	2021年 3000 人	 216%	各地区独自の裁量で年度内の行事が決定されるため、年度ごとの参加人数にバラつきが出る。2019年度はSDGs推進を意識した講座が多く、参加者数も増加。2020年度はコロナ禍の影響で減少する見込み。本事業の担当部署との連携を図り、指標達成のための方策を立てる必要がある。

2. 自治体SDGs推進モデル事業

自治体SDGs推進モデル事業名	女性が輝く「めがねのまちさばえ」～女性のエンパワメントが地域をエンパワメントする～
モデル事業の概要	経済・社会・環境の3分野において、女性が輝くまちづくりを軸とした「居場所」と「出番」づくりを創出することで、女性のエンパワメントを生み、子どもや男性、地域のエンパワメントにつなげていく。そして、そのような環境の中で、女性の意思決定への参加の促進とリーダーシップの機会の拡大を図る。

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2020年	21年	達成度 (%)	取組内容	当該年度の取組状況の評価と今後の課題	
三側面ごとの取組・事業と2021年のKPI	【経済】 ①-1 サテライトオフィス誘致事業	4.4 5.c 8.3 8.5 8.9 9.2 9.b 11.2	サテライトオフィス誘致件数	2019年3月 6件	2019年度 6件	2021年 10件	 <p>0%</p>	【取組内容】 空き家を活用し、サテライトオフィスの誘致を図るため、都市圏でのセミナーや企業訪問、鯖江市体験ツアーを実施。 【事業費等】 1,500千円	2019年度は誘致には至らなかったが、2020年4月は1件誘致できるなど、IT企業を中心に徐々に伸びており、女性や若者の雇用が増加している。今後もセミナーや企業訪問を行うほか、関心が高まっている、地方で働きながら余暇を楽しむ「ワーケーション」にも取り組む。	
	①-2 成長分野技術確立・販路開拓事業		成長分野の技術開発、海外販路開拓件数	2019年3月 27件	2019年度 29件	2021年 33件	 <p>33%</p>	【取組内容】 医療や医療ウェアラブル情報端末等、成長分野への参入目指した製品開発を促すとともに、国内外の見本市出展等、販路開拓を促す 【事業費等】 15,000千円	2019年度は海外販路開拓が微増しているが、年度末からのコロナ禍で海外での展覧会が中止になり、更なる増は厳しい状況である。今後はオンラインを活用した展覧会などの開催により、販路開拓を図っていく。2020年10月には、オンラインと併用した国際メガネ展も開催を予定している。一方、ものづくりのノウハウを活かして、コロナ対策グッズが開発され、売り上げが伸びている。SDGs推進でつながった、眼鏡の産地と全国の小売店が連携し、2020年10月から消費拡大キャンペーンを実施。	
	①-3 越前ものづくりの里プロジェクト事業									
	①-4 「めがねのまち鯖江」元気再生事業									
	①-5 特産物ブランド化事業									
②-1 クリエイティブ教育都市事業			女性起業家数	2019年3月 20人	2019年度 22人	2021年 35人	 <p>13%</p>	【取組内容】 全小中学校でプログラミングクラブを開催し、IT社会を支えていく子供たちを育成する。越前漆器職人の育成やデザイン、経営的な視点を学ぶことができる「職人塾」事業や産地の魅力向上に取り組む。 【事業費等】 13,290千円	事務系の業種を好む若者や女性の雇用のミスマッチを減らすために、IT企業などのサテライトオフィスの誘致や、地場産業の成長分野への参入促進に努めるとともに、そういった企業に就職もしくは起業し、自分のスキルを活かし、地域に還元したいと考える人材を育成しているが、結果が出るまでには時間を要する。越前漆器という伝統工芸の魅力向上を図ることで、携わりたいと思う若者を増やし、人材を育成する「職人塾」には、若い女性希望者もあり、スキルを活かして起業することも期待できる。商工会議所、金融機関等と連携し創業を支援する創業塾（起業家ミートアップ）事業などへ支援を行い、開業率の向上を図っている。また、新たに「女性起業家応援支援金」や「女性就業促進支援事業」を2020年度新設し、促進を図っている。	

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2020年	21年	達成度 (%)	取組内容	当該年度の取組状況の評価と今後の課題
三側面ごとの取組・事業と2021年のKPI	【社会】 ①-1 提案型市民役事業（「鯖江市O C課」事業を含む。） ①-2 学生との連携事業（「鯖江市役所 J K課」事業を含む。） ②-1 女性が輝くまち鯖江世界発信事業 ②-2 第5次鯖江市男女共同参画プラン事業 ②-3 輝く女性のヘルスケア事業 ②-4 女性が働きやすい環境づくり応援事業 ②-5 選べるワークスタイル推進事業 ②-6 「わたしの日プロジェクト」事業 ③-1 SDGs 教育推進事業 ③-2 ふるさと教育推進事業 ④-1 地域公共交通の再編事業 ⑤-1 めがねのまちさばえSDGs プラットフォーム事業	3.1 4.7 5.4 5.5 5.c 8.5 10.2 11.2 11.3 17.17	まちづくりの提案をする団体数	2019年3月 51 団体	2019年度 51 団体	2021年 51 団体	100%	【取組内容】 市が行っている事業のうち、市民が「新しい公共」の担い手として自ら行ったほうが良い事業を委託する。 【事業費等】 33,694 千円	提案団体数は横ばいだが、新たな提案団体が現れており、参画する団体が広がりを見せている。2020年度以降はコロナ禍の影響で事業が中止または縮小しており、目標達成は困難な状況。コロナ禍の中でも効果が得られる事業方法を検討するとともに、新たに参画する団体をさらに広げることで、目標達成に努めている。
			学生連携によるまちづくり提案数	2019年3月 14 件	2019年度 15 件	2021年 19 件	20%	【取組内容】 地元住民との交流や地域産業との触れ合いを通じて、学生が主体となり地域活性化など、まちづくりへの提案を行う場を設ける。若者の柔軟で創造性豊かな発想を市の施策に反映することにより、若者が活動しやすい、市民主役のまちづくりに努める。 【事業費等】 2,323 千円	2019年度は学生からの政策提案を募集する事業等をおとして微増しているが、2020年度以降はコロナ禍で学生が集まらず、一部の事業はオンラインで実施するなどしているが、件数は減少する見込み。他のすべての事業についても、オンラインを併用するなど検討していく必要がある。
			新たに女性の働きやすい環境整備を行う企業数	2019年3月 0 社	2019年度 4 社	2021年 12 社	33%	【取組内容】 女性が働きやすくなるための環境整備に取り組み市内事業者を支援する。 【事業費等】 4,158 千円	市内の企業は、男性従業員の割合が高い製造業が多くを占めており、女性にとって働きやすい環境にない企業が多いことから、パウダールームやトイレなどの環境整備に対する支援を実施。2020年度はコロナ禍の影響による収益悪化もあり、取り組む企業が多くは見込めない。
			審議会等における女性の登用率	2019年3月 32 %	2019年度 34.1 %	2021年 35 %	70%	【取組内容】 女性活躍推進計画を盛り込んだ第5次男女共同参画プランを策定し推進する。 【事業費等】 3,676 千円	男女共同参画プランの中に、審議会等における女性登用率の目標値を定めた。すべての審議会等で女性の登用率30%以上となるよう進めているが、構成員があて職で固定されているものもあり、登用率向上の足かせになっている。
	【環境】 ①-1 持続可能な素材活用推進事業 ①-2 さばえエコ農業支援対策事業 ①-3 COOL CHOICE & SDGs 普及啓発事業 ①-4 空き家再生等推進事業 ②-1 こどもエコクラブ活動支援事業	4.7 6.3 6.6 9.4 9.b 12.2 12.5 12.8 13.3 14.1 15.2	ごみの1人1日当たりの排出量	2019年3月 920 g	2019年度 931 g	2021年 870 g	-22%	【取組内容】 環境に関するイベントや講演会により、食べきりやエシカル消費などの普及啓発を行う。ごみの分別のポスターを環境負荷の低い新素材で作成し全戸に配布することで、ごみの減量化とアップサイクルについて啓発を行う。こどもエコクラブ活動支援により、市内小学生の自発的な環境活動を促進し、環境に対する意識の向上を図る。 【事業費等】 8,774 千円	一般家庭のごみは減少しているが、北陸新幹線の工事の関係で、事業所用ごみが増加し、結果として数値上は後退している。今年度に入り、コロナ禍により、家で過ごす時間が増し、一般家庭のごみの増加が進んでいる。今後も環境教育支援センターと連携し、生ごみたい肥化事業の普及講座やごみの分別・出し方の出前講座などを実施し、オンラインも活用しながら市民への周知を図っていく。
			空き家利活用件数	2019年3月 9 件	2019年度 13 件	2021年 19 件	40%	【取組内容】 空き家の再生を主な目的として、県内外からの起業進出する際に市内空き家を有効利活用するための改修費を支援する。 【事業費等】 13,980 千円	サテライトオフィスに利活用していることもあり、2019年度13件と順調に伸びている。市民団体や地域おこし協力隊などが積極的にマッチングセミナーを開催しており、今後も連携し、空き家の掘り起こしや空き家所有者との相談会などを開催し、利活用の促進を図る。最近のDIYブームもあり、古い家を利活用したいという相談も増加傾向にある。

2. 自治体SDGs推進モデル事業

<p>三側面をつなぐ 統合的取組 (自治体 SDGs補助金 対象事業)</p>	<p>女性活躍プラットフォーム創出事業 ～鯖江から世界へ～</p> <p>SDGsを三側面において展開していくためには、行政におけるエンパワメントはもとより、市民や市民団体、企業などあらゆるステークホルダーにおけるエンパワメントが重要である。これらステークホルダーのエンパワメントを育むには、様々な要因によりその潜在的ポテンシャルが十分に活かされていない女性のエンパワメントを引き出すことがより効率的であると考え、居場所と出番の創出および障害となるインポスター症候群等の調査・対策に取り組んだ。また、これらの取組みを進める上で、鯖江市の女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」を一部改修し、多様な世代や様々なステークホルダーが活動し情報交換を行う場とするともに、国内外に向けて鯖江市の取り組み状況を発信し横展開を図る場として整備した。</p>
<p>取組 内容</p>	<p>2019年</p> <p>【取組内容】【①女性活躍に向けた意識啓発 16,964,864円】 ◆全国高校生まちづくりサミット2019 3,395,574円 ◆女性活躍総合イベント 12,969,290円 (国連の友ウイメンズダイヤモンドコミティ運営委託料6,994,570円、国際女性デーと運動したキャンペーン事業委託料3,008,720円、「めがねのまちさばえのSDGs」リーフレット 製作330,000円、SDGs女性活躍推進活動支援委託料700,000円、地元新聞特集記事掲載料1,936,000円) ◆女性活躍意識啓発(満足度、インポスター症候群) 600,000円 【②女性活躍の世界発信 2,398,000円】 ◆国連会議での発信 2,398,000円(番組制作委託料 2,398,000円) 【活動拠点施設整備 18,527,577円】 女性活躍推進、男女共同参画事業の地域活動拠点施設である「夢みらい館さばえ」に授乳室や多目的トイレ、スロープの設置を整備。1階交流スペースを多様な人々の思いを交換する場として改修した。</p>

<p>当該年度の 取組状況の評価</p>	<p>●「国連ニューヨーク本部SDGs推進会議」や「持続可能な開発のためのグローバル・フェスティバル・オブ・アクション」において、本市のSDGs推進の取組みを発表し、推進会議の議長からは高い評価を得た。なお、2020年4月に参加予定であった第6回国際女性会議WAWAについては、コロナ禍の影響で延期となっている。</p> <p>●国連の友ウイメンズダイヤモンドコミティの委員長で、国連の女性問題の第一人者であるアンフルK.チャンドリー大使が参加して、女性活躍総合イベントが本市内で行われ、多くのステークホルダーが関わることでSDGs推進・普及啓発が推進された。また、眼鏡業界や東京ガールズコレクションと連携して、3月8日の国際女性デーに合わせて「オレンジめがねキャンペーン」を実施し、本市が特に注力する目標5「ジェンダー平等の実現と女性の地位向上」の周知を図り、多様な世代から関心を集めた。さらに、全国高校生まちづくりサミット2019では、全国から67人の高校生が参加し、SDGsをテーマに議論を深めた。</p> <p>●「インポスター症候群」の認知度が低いことから、「インポスター症候群」に関する啓発やアンケート調査を通して、認知度向上に取り組んだが、サンプル数が十分ではなかったため、アンケート結果による分析や対策等への考察までには至らなかった。2020年度も引き続きアンケート調査を実施するとともに、その結果を分析していく。</p> <p>●「夢みらい館・さばえ」を一部改修し、国内外に情報発信できるミーティングのスペースやサインを準備したことにより、コロナ禍にあっても、Zoomやyoutubeを活用した会議やセミナー等を実施できた。また、キッズコーナーや多目的トイレなどを整備し、だれもが来館し活動できる環境を整えたことにより、コロナ禍であっても、若い世代の利用も増えている。さらに、だれもがSDGsに関する資料を閲覧できるよう、図書館の本貸出しスペースを活用している。2020年度は、来館できない方が活動に参加できるよう、オンラインでアンケートやクイズに参加できる仕組みをHPに組み込んでいる。このような新しい取組みが生まれていることで、新たなステークホルダーともつながりができ、今後、活動の幅が広がっていくように期待している。</p> <p>●コロナ禍の影響で、今まで実施していた対面による活動やイベントができないため、それに代わる代替案を模索している。</p>
--------------------------	--

<p>自律的好循環に向けた取組状況</p> <p>■「インポスター症候群」に関するアンケート調査では、様々なイベントや講座、連携している企業、学校など様々な場において、年代や性別に考慮しながら実施したが、サンプル数が十分ではなかったため、アンケート結果の分析には至らなかった。2020年度も引き続きアンケート調査を実施するとともに、その結果を分析し、「インポスター症候群」に関する対策等への課題を見つけていきたい。</p> <p>■女性活躍推進の活動拠点施設を整備したことで、これまで実施していた意識啓発事業の情報発信ができるようになった。また、コロナ禍の影響もあり、リモートでの研修会の開催やオンライン上でのアンケートも実施した。政治に関心の低い若者や女性に関心を持ってもらい、参画する意識を持ってもらうことから始めよう、会場を活用して、無観客で女性有志が選挙の公開討論会を開催した。また、その様子をyoutube配信し、多くの人に見てもらうことができた。このことがきっかけで、別の市民団体が第2弾を開催予定である。</p>
<p>ステークホルダーとの連携状況</p> <p>■三側面の各取組において、関連のある市民団体(夢みらいWe、鯖江市役所JK課、鯖江市OC課など)と連携して、様々なイベント、講演会などでSDGsの推進を図ることができた。</p> <p>■国連の友APや福井県眼鏡協会等とは、「SDGsGoal5 オレンジめがねキャンペーン」として、「オレンジ」・「めがね」・「女性」・「SDGs」をキャッチツールに、輝く女性を応援するキャンペーンを開催した。これをきっかけに、全国の小売店との連携にもつながり、ステークホルダーの幅が大きく広がるとともに、めがね会館内に「さばえSDGs推進センター」を開設することにもつながった。</p> <p>■鯖江商工会議所主催の「ものづくり博覧会」は2019年以降、まさに「SDGs」をテーマに開催され、市内のものづくりに携わる企業がSDGsを意識する機会となった。その他、保険会社と連携し、中小企業向けの研修会を開催するとともに、銀行、新聞社、市内企業などのステークホルダーが参加するシンポジウムも開催した。</p>

<p>三側面をつなぐ 統合的取組 による 相乗効果</p>	<p>経済⇄環境</p> <p>●今後、女性が働きやすく社会参画しやすい風土が醸成されていくことにより、求職を希望する女性が増加するとともに、求人希望する都市部の企業がサテライトオフィスを開設し、サテライトオフィスとして利用される空き家の需要が増加することにつながってきたい。2020年には、市内にサテライトオフィスが1社開設された。また、コロナ禍の中で、女性の視点が生かされ、カチューシャ型フェイスシールドなど、新しい生活様式を考慮した新製品の開発が進められている。</p>	<p>経済⇄社会</p> <p>●今後、女性が働きやすく社会参画しやすい風土が醸成されていくことにより、求職を希望する女性が増加するとともに、求人希望する都市部の企業がサテライトオフィスを開設することにより、都市部の事務系で賃金体系が都市部並みの、若者や女性に魅力ある職場の増加が見込まれる。家族経営や男性従業員が多く占める製造業に対し、トイレや更衣室等の改修や産休、育児休暇制度の整備など、女性が働きやすく、働き続けやすい環境を整えたことで、若者や女性の雇用が今後、見込まれる。また、女性活躍推進を中心としたSDGsへの先進的な取組みが、イベントやマスコミ等を通して「見える化」することで、若者や女性に関心を持ってもらうことが期待できる。このような機運が高まることで、まちづくりにかかわる若者や女性が多い、活気ある本市のイメージにより、更なるサテライトオフィスの誘致につながってきたい。</p>	<p>社会⇄環境</p> <p>●コロナ禍を機に、改めて自然環境に関心もたれ、新しい生活様式を実践していくうえで、女性が社会参画しやすい風土を醸成していくことは重要と考える。女性視点で作成された新しい生活様式の啓発ポスターや感染防止対策を呼びかけるリーフレットは子どもから高齢者までわかりやすく、見やすいものになっている。また、停滞した地域経済の活性化を図るために、消費拡大を促進する事業が様々な形で実施される際、エシカル消費を促進する啓発も同時に実施するなど、SDGsの推進も同時に図っている。</p>
---	--	--	--

<p>自治体SDGsモデル事業の普及展開状況</p> <p>■子どもからお年寄りまでの参加がある「吹奏楽フェスティバル」や、鯖江市の基幹産業である眼鏡の企業が主体となって開催する「めがねフェス」、環境に特化し、企業や市民が参加する「さばえ環境フェア」、ものづくりの企業が集まるイベント「ものづくり博覧会」が、SDGsという世界共通の目標によってつながった市民や市民団体、企業、学校、行政の連携により開催され、参加者や来場者のSDGsに関する認知度が高まった。その他、「鯖江市役所」JK課」プロデュースの全国高校生まちづくりサミットを開催し、SDGsについてのワークショップを実施。参加者同士、お互いに刺激を受けたことで、高校生による地元での新たな取組みが期待できる。また、国連での市の取組紹介はPR効果が高く、国内外から多くの関心を集めることができた。また、欧米で取り上げられているインポスター症候群(自分に自信が持てず、第三者からの評価を受け入れられないといった、自己肯定感が低い傾向のこと)についての調査やワークショップなどを市民団体とともに実施した。</p>
--

#	指標名	当初値	2019年	2021年	達成度(%)
1	【経済→環境】空き家利活用件数	2019年3月 9件	2019年度 13件	2021年 19件	40%
2	【環境→経済】成長分野の技術開発、海外販路開拓件数	2019年3月 27件	2019年度 34件	2021年 33件	117%
3	【経済→社会】まちづくりの提案をする団体数	2019年3月 51団体	2019年度 51団体	2021年 51団体	100%
4	【経済→社会】新たに女性の働きやすい環境整備を行う企業数	2019年3月 0社	2019年度 4社	2021年 12社	33%
5	【社会→経済】サテライトオフィス誘致件数	2019年3月 6件	2019年度 6件	2021年 10件	0%
6	【社会→経済】女性起業家数	2019年3月 20人	2019年度 22人	2021年 35人	13%
7	【社会→環境】ごみの1人1日当たりの排出量	2019年3月 920g	2019年度 931g	2021年 870g	-22%
8	【環境→社会】学生連携によるまちづくり提案数	2019年3月 14件	2019年度 15件	2021年 19件	20%
9	【環境→社会】審議会等における女性の登用率	2019年3月 32%	2019年度 34%	2021年 35%	67%

<p>有識者からの取組に対する評価</p> <p>■幅広い取組と評価指標を設定しており、審議会の女性登用、まちづくり提案、空き家利活用、サテライトオフィス等、高い水準で推進していることは高く評価できる。</p> <p>■女性のジェンダー平等は、SDGs未来都市の中でも際立った目標である。企業への支援の取組が、上手く進んでいると評価できる。</p> <p>■エンパワメント、交流人口、風の人、経済への女性参画、行動等を自立的好循環につなげていくことを期待する。</p> <p>■女性の「居場所」と「出番」づくりの目標設定は注目される。その際、職場、学校での取組の見える化はされており評価もできるが、地域コミュニティ内部での新しい取組を期待する。(例えば、拠点を活用した他の地域での学習用の研修プログラムの開発など)</p> <p>■活動拠点を今後一層活用して、県内付近の市町村のみならず全国各所へのアウトリーチ活動を今後も期待する。</p> <p>■女性と他テーマをクロスして考えることで、「女性×貧困」で考え母子家庭を支援する取組といった新たな発想を検討されることを期待する。</p> <p>■他都市が、鯖江市の成功事例を学ぶ方法・研修プログラムを検討することを期待する。</p>
